

# 医薬品管理から始まる タスク・シフティングへの期待

小原直紘<sup>†</sup>第76回国立病院総合医学会  
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol. 78 No. 3 (162-165) 2024

## 要旨

薬剤師の業務は年々広がっており、病院・薬局を問わず薬剤師の業務は「医薬品管理や調剤などの物を中心とした業務（以下、対物業務）から患者のケアを中心とした業務（以下、対人業務）へ」という概念が薬剤師のあるべき姿として重要視されている。近年、さらに追い風となる動きとして、医師の働き方改革を推進するために、医師でなくても行える業務を薬剤師に移管するタスク・シフティングの検討が求められている。一方、薬剤師業務の範囲が広がることで、現状の業務が手一杯となり、薬剤師だけのマンパワーだけではタスク・シフティングの推進に向けて十分に対応できない施設も多いと考えられる。国立病院機構京都医療センター（当院）もマンパワー不足に悩む施設のひとつであったが、薬剤師の負担軽減策のひとつとして、2019年4月に厚生労働省より発出された「調剤業務のあり方について」の通知<sup>1)</sup>を受けて業務改善を検討した。本通知によって非薬剤師の業務範囲が明確化され、一定の条件下で非薬剤師でも薬剤師が実施している業務の一部が実施可能となったことで、対物業務の効率化を図ることができ、その結果として、薬剤師による対人業務を充実させることが可能となる。しかし、非薬剤師へのタスク・シフティングを導入する場合、手順書の作成と薬事衛生上必要な研修の実施が必要となる。今回、当院での対物業務のひとつである医薬品管理を中心に非薬剤師へのタスク・シフティングを推進した取り組みについて紹介するとともに、薬剤師の業務シフト見直しによる薬物療法に関するタスク・シフティングの今後の期待を考えていきたい。

キーワード 対人業務, 医薬品管理, タスク・シフティング

## はじめに

国立病院機構京都医療センター（当院）の薬剤師でタスク・シフティングを考えるきっかけになったのは薬剤師の働き方の変化にある。現在、病院・薬局を問わず薬剤師の業務は「医薬品管理や調剤などの物を中心とした業務（対物業務）から患者さんの

ケアを中心とした業務（対人業務）へ」という概念が薬剤師のあるべき姿として重要視されている<sup>2)</sup>。近年、対人業務に関しては年々色濃くなり、さらに追い風となる動きとして、医師との連携によるタスク・シフティングの推進が求められている。ただし、薬剤師業務の範囲が広がる反面、現状の業務で手一杯であり、薬剤師のマンパワーだけではタスク・シ

国立病院機構京都医療センター 薬剤部 †薬剤師  
著者連絡先：小原直紘 国立病院機構京都医療センター 薬剤部 〒612-8555 京都府京都市伏見区深草向畑町1-1  
TEL：075-641-9161 e-mail：naohiro2.043@gmail.com  
(2023年2月22日受付 2023年4月14日受理)

Expectations for Task Shifting Starting with Drug Management  
Naohiro Ohara National Hospital Organization Kyoto Medical Center Pharmacy  
(Received Feb. 22, 2023, Accepted Apr. 14, 2023)

Key Words : interpersonal work, drug management, task shifting